

チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

| | | | |
|------------------------------|---------------------|---|--------------------|
| 自治体提示の地域課題名 （注1） | No. -（事務局用） | 自治体提示の地域課題名 学生が作る!こどもまんなかの取組#こどもまんなかやってみた | 自治体名 鶴岡市 |
| チームがつけたアイデア名 （公開）（注2） | 進学する高校生のためのひとり暮らし講座 | | |

（注1）地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

| | | | |
|-------------------|-------------------------|---|--|
| チーム名 （公開） | 山形大学農学部こどもまんなか応援隊 | | |
| チーム属性 （公開） | 1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 | 3 | |
| メンバー数 （公開） | 6名 | | |
| 代表者 （公開） | 渡会日菜 | | |
| メンバー （公開） | 菅井一玖、柴田倅、杉山智陽、井上実結、星川もも | | |

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募内容の公開>

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズのCC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認 確認後 OK なら右に○印を記入⇒○

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいても結構です。アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたい、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

(1) アイデアの内容（公開）

<応募チームとして**解決したい課題のポイント**はこれです！をごく短く以下に書いてください>

<解決したい課題のポイント>

地域では人口減少を加速させる若者の流出を止める方法を見つけることが課題になっています。しかし、100%流出を止めたとしても、若者は年々減るため、一定数の若者の流入を促す必要があります。そこで、人口流出をうまく活用した逆転の発想のイベントができないか考えます。

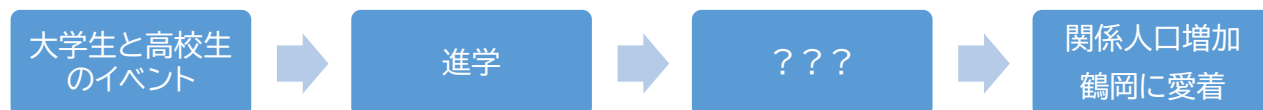
地元出身者以外には知らないまちはその人にとっては存在しないのと同じです。いかに他者へ鶴岡市の存在を認識させるかを、高校生のメリット（こどもまんなか）を踏まえてデザイン思考で考えます。

<以上の課題解決のために**「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください**> <**アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。**>

<よいアイデアを生むには**関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です**>

<提案するアイデアの内容>

このイベントのポイントは「先輩大学生と高校生のつながり」を築き、「進学により地域を離れる高校生を、関係人口を作るキーマンとして全国に送り出す」ことです。



地方都市の高校生は進学による将来の一人暮らしに期待と不安を覚えています。そこにはさまざまなドラマが待ち受けて、予期せぬ失敗もあります。

大学生が自らの失敗談や体験を通して実感した一人暮らしのコツを教える「高校生のための大学生一人暮らし講座」を開催します。

ただし、高校生の都会生活への送り出しやお悩み相談イベントではありません。

大学生が感じている地域の魅力を楽しく伝え、進学後に（地元に戻るか戻らないかは別として）関係人口として、地域に貢献する地元出身者を増やすことを目的にしています。

一人暮らしを楽しく過ごすために、交友関係を広げること。（山形大学生にとった独自アンケートでは93%が大学で交友関係が広がったと回答）その重要性を伝え、交友関係をうまく使って友達と一緒に鶴岡に遊びに来るようにナッジします。

鶴岡出身者を中心に鶴岡に注目する若者を全国に増やし、そこから生まれる持続的な人の流れをつくります。

- ① 地元出身大学生と鶴岡の大学に通う大学生が、（スタートは山形大学農学部生）
- ② これから進学し一人暮らしを経験する地域の高校生に対して、（鶴岡北高校・鶴岡南高校など）
- ③ 市内の高校生の放課後の居場所や学校にお邪魔して、（公共施設のフリースペースや近隣の母校 無料）
- ④ 高校卒業前までに（大学入試後又は3年夏前までに）
- ⑤ 一人暮らしの必須事項と家族や学校では教えられないコツを、（失敗談や学生アンケートから）
- ⑥ 大学生の実体験や友人からのリアルタイムの情報を取り入れながら、（毎年アップデート）
- ⑦ それぞれの語り口で楽しく教え、（話し手を変えながら毎年継続）
- ⑧ 交友関係を広げることが一人暮らしを豊かにすることに気づかせ、（人脈・交友関係）
- ⑨ 友人と鶴岡の加茂水族館や温泉旅館で楽しむ未来をイメージさせ、（地域に誘引）
- ⑩ これから地域を離れる若者の活躍を先輩として応援する。（激励・感動・恩返し）

1. 実施時期と場所

- ・高校 3 年生には、大学入試終了後 2 月～3 月中旬に公共施設で実施
つるおか AZITO（R5～ 国土交通省補助金 鶴岡市の中心市街地の居場所づくり実証試験）
- ・高校 2 年生には、母校の先生を通じ、進路学習の授業にお邪魔して実施
- ・市の実施するイベント ディスカバつるおか（帰省した大学生と高校生に向けた交流イベント）でひとり暮らし講座の周知
- ・場所を選ばずオンラインも可 ゲリライベント可能

2. 人数 何人でも対応可能

3. 内容

- (1) 実態調査の結果発表 ひとり暮らし心配ごとアンケート（高校生・大学生）
- (2) 素敵に一人暮らしするためのコツや注意点（基本を押さえつつ、実例を交えて紹介）
- (3) 実際にあった失敗談を当事者が紹介
- (4) 大学生から高校生へ応援メッセージ

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

国では子ども家庭庁が立ち上がり、「こどもまんなか」をスローガンに若者子育て世代の応援による人口減少対策を強化しています。私たちの住む街の将来が明るいものになるため、自分達なりの「こどもまんなか」による人口減少対策を考えてみました。

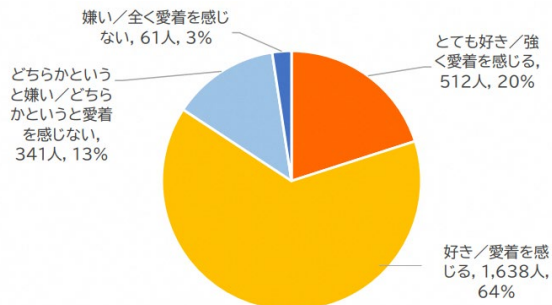
地元選出の加藤鮎子衆議院議員が特命担当大臣（子ども政策 少子化対策 若者活躍 男女共同参画）になり、地元の若者もこの機会にさらに地元を盛り上げたいと思います。

人口減少の課題は若者の地域外への流出です。進学により約7割の若者が地域を離れ、一定数が戻ってこないことが人口減少を加速させる要因となっています。（全員の同意による個人情報取得が難しいため、追跡データがなく、市でも把握できていないそうです。）

鶴岡市の高校生・中学生7000名を対象にした鶴岡市のアンケートによると、約9割が地元へ愛着があると回答しており、住環境や食べ物、家族友人との関係など地元が好きなのがつかえます。

<出典：鶴岡市の実施した「つるおか若者意識調査2023」>

有効回答数：2,552名



地元が好きなのに戻ってこない？

若者が戻ってこないことによって地域が衰退すると言われることは、戻ってこない若者を悪者扱いしているようにも思えてしまいます。

鶴岡市では、奨学金返済支援や大学生に向けた就職セミナーや交流事業により、卒業後の地元回帰を促進しています。市が令和4年度に初めて開催した地元回帰を検討している大学生をターゲットとした体験交流事業「つるおかミライ会議」に参加して、自分が思った以上に地域の魅力と人を知らないこと、そして地域貢献を考える機会がなかったことに気付きました。

「進学した若者が地元に戻ってきたときに優しく迎えるオアシスになる。」とその場で決意表明しました。

若者を応援して送り出す場。そして将来、若者が成長し仲間を連れて凱旋したときに温かく出迎える場。このアイデアではそんなイメージを実現します。

- ①若者に必要とされている内容。（家族や周囲の後押しが得られる）
- ②予算ゼロ。（資金調達問題からの解放）
- ③内容をアップデートできる。（あきらめない新鮮さを維持できる）
- ④相手も楽しい、本人も楽しい。（それぞれにワクワクがある）
- ⑤全国から協力が得られる。（友人や同窓会ネットワーク）
- ⑥広く展開できる。（他地域で実施し、事例収集で連携できる）
- ⑦コントロールできる。（スケジュールに縛られない。学業やバイト優先をできる）
- ⑧引き継げる（継続）
- ⑨デジタル活用（オンラインアンケート オンライン講座
+ 需要が多ければ 収集した事例を連携企業に提供し、ひとり暮らし応援アプリ開発）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず>

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

<開催イメージ>

1. **実施主体** 山形大学に通う、地元出身者を中心とするグループ
2. **実現に必要な資源（ヒト・モノ・カネ）**

ヒト：講師○大学生（地元出身 or 鶴岡在住） ※ガクチカを求める大学生

聴講者○地域の高校生

※将来は講師やひとり暮らしのノウハウ提供者に昇格

※同じ話をしたとしても聴講者は毎年変わる。さらに話題をアップデートするので同じ話ではない。

モノ：○個人所有のパソコンがあれば投資はいらない。

○会場 協力の公共施設や学校を活用。オンラインでも対応可能

カネ：ゼロ予算 交通費 大学生の行動範囲内での実施のため不要。

会場費 市や学校の協力で会場代不要。どこで開催しても免除可能な内容。

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

R5.3 つるおかミライ会議参加

R5.4 イベント素案作成・学内メンバー募集

R5.5 打合せスタート

R5.6 高校生と大学生にアンケート調査

R5.9 アンケートの結果分析と講座のイメージ構築

R5.10 講座のスライド作成 失敗した大学生メンバー確保

R5.11 スライド完成に向けて打合せ

R5.12 つるおか AZITO 利用者に協力してもらいデモンストレーション/ディスカバ鶴岡でのイベントの周知（帰省した若者 U ターン向けの交流・トークイベント）

R6.2~3 高校生に向けて実施

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

ひとり講座のスライド



⇒つるおか AZITO での発表の様子



（事務局に掛け合い、市のこどもの居場所実証事業も友好に活用させていただきました。）

⇒「ディスカバつるおか」での帰省大学生・若者への活動報告

⇒「つるおかミライ会議」との連携 鶴岡市の若者交流事業の宣伝